

## 第84回麻布獣医学会 一般演題20

## 2008年度産業動物臨床基礎実習実施6年目の 評価と問題点

武藤 眞, 入来 常德, 恩田 賢, 伊東 正吾, 新井佐知子,  
金子 一幸, 押田 敏雄, 川上 静夫, 若尾 義人, 和田 恭則

麻布大学獣医学部獣医学科

### [目的]

平成15年度から始まった獣医学科1年次を対象とする本実習(前期1単位)の目的は、これまで産業動物にほとんど触れたことのない学生に、入院患者の飼養管理を通して臨床に必要な基礎的事項を体験的に習得させることにある。学生の産業動物に関する興味や認識等を把握するために実習終了後、アンケート調査を行ったので報告する。

### [方法]

前期に週1回(木曜日)担当教員が輪番で、講義(14:00~15:00)と実習(15:10~16:50)を計12回行った。

なお、前年度から外来講師(北海道NOSAI)による講義を1回設けた。一方、実技は班単位(計18班)で5日間(朝8:00~8:45, 夕16:00~18:00)の実習を行い、全ての実習が終了した翌週に報告会を行った。

### [結果]

本年度の履修者は91名(全体の61%)、単位認定者は87名であった。履修者の出身地は関東(60%)が最も多く、中部13%、近畿13%および九州・沖縄12%であった。

卒業後の就職希望先は小動物臨床(42%;前年度58%)が多く、産業動物(10%;前年度6%)、公務員(5%;前年度12%)であったが、進路未定の

学生(31%;前年度15%)が多かった。

さらに、履修者の84~93%はこれまで牛、豚、馬に接した経験がなかった。講義は例年同様、関心度が高く(良好;52%, 普通38%), 上位は家畜共済(17%;前年度27%:講義のみ実施), 牛乳(16%), 馬(16%), 牛(9%)となり、実習の評価の方が高かった(良好;93%, 普通7%)。一方、産業動物繋留室の実技では搾乳(41%;前年度44%), ミルクの給与(23%;前年度21%), 飼料調整(13%;前年度26%)に前年度同様、関心が高かった。実際に動物に触れた印象としては、可愛い・大人しい・繊細である(27%), 生き物であるという実感(24%), 動物の大きさ・外貌(21%)および楽しく新鮮で良い経験(16%)等であり、前年度と変わらなかった。

本実習全体の評価は89%(前年度;95%)が良好と判断し、産業動物臨床の見方について変わったと評価した学生は前年度と同様95%であった。

また、講義や実習および実技に対する意見や要望等は、年々少なくなる傾向にあった。とくに卒業生の共済獣医師による現場での体験談は前年度同様、産業動物に対する認識や興味を一層高めることができたと考えられた。なお2009年4月、本実習を自由科目から選択科目に変更したことにより、在籍者150名中144名が履修している。